

2022年10月18日

各 位

不動産投資信託証券発行者名

東京都千代田区神田神保町一丁目 105 番地

アドバンス・レジデンス投資法人

代表者名 執行役員

樋口 達

(コード番号：3269)

資産運用会社名

東京都千代田区神田神保町一丁目 105 番地

伊藤忠リート・マネジメント株式会社

代表者名 代表取締役社長

東海林 淳一

問合せ先 執行役員 住宅事業本部長

工藤 勲

(TEL：0120-938-469)

サステナビリティに係る目標・KPIの設定および 2050年カーボンニュートラルの実現に向けた目標値の引き上げ

アドバンス・レジデンス投資法人（以下、「本投資法人」といいます。）は、2022年9月に、サステナビリティ推進において優先的に解決すべき重要課題（マテリアリティ）の解決の実効性を高めるため、特定した10個全てのマテリアリティに対する目標・KPIの設定を行い、その内、環境パフォーマンスについては、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて目標値の引き上げを行いましたので、お知らせいたします。

記

1.マテリアリティに対する目標・KPIについて

本投資法人は、E（環境）、S（社会）、G（ガバナンス）の各項目において、計10個のマテリアリティを特定しています。これらのマテリアリティ解決の実効性を高めるために、2022年9月に、E・S・G全ての項目に対して目標及びKPIを定めました。本投資法人は、これらの目標に取り組みながら、中長期的成長の実現を図ります。

また、従来設定していた環境パフォーマンス（CO2排出量、エネルギー消費量、廃棄物排出量、水消費量）に係る目標については、パリ協定および日本政府による2050年カーボンニュートラル宣言に対応すべく、下表の通り、目標値の引き上げを行いました。

【環境パフォーマンスに係る目標】

項目	目標・KPI
CO2排出量（GHG）	≪Scope1・2≫ 2030年度迄 排出量（総量）51%削減（2018年度比） 2050年度迄にネットゼロ ≪Scope3≫ GHG全体の削減に向けた、対応カテゴリの把握及び範囲確定・算定
エネルギー消費量	2030年度迄 原単位20%削減（2018年度比）
廃棄物排出量	リサイクル率65%（対象：原状回復等専有部工事からの排出）
水消費量	2030年度迄 増加させない（対象：物件共用部）

(従前の目標 CO2排出量・エネルギー消費量：年1%削減、5年5%削減（原単位）、廃棄物排出量・水消費量：増加させない)

特に、CO2 排出量（GHG）については、2050 年度迄にネットゼロとする長期目標に加え、原単位ベースを排出量（総量）ベースへ変更し、2030 年度までの排出量を 51%削減（2018 年度比）とする中間目標を設定しました。また、サプライチェーンにおける Scope1、Scope2 以外の間接排出（本投資法人の活動に関連する他社の排出）を範囲とする Scope3 についても、算出対象の定義を明確にし、把握に努めます。これらの取組みを通じ、持続可能な社会、脱炭素社会の実現に貢献してまいります。

マテリアリティおよび目標・KPI の詳細につきましては以下ホームページをご覧ください。

アドバンス・レジデンス投資法人 目標・KPI : <https://www.adr-reit.com/sustain/08>

2. 本投資法人及び資産運用会社の今後の取組み

本投資法人及び資産運用会社である伊藤忠リート・マネジメント株式会社は、中・長期的な資産価値の維持・向上のためには、環境配慮、地域社会への貢献及びテナント満足度の向上等を中心としたサステナビリティに関する取組みが重要であると認識しています。今後につきましても、それら取組みを推進することにより、投資主価値の更なる向上を図る方針です。

以上

アドバンス・レジデンス投資法人とは

伊藤忠グループの資産運用会社「伊藤忠リート・マネジメント株式会社」が運用する、Jリート最大の住宅特化型リートです。東京都心を中心に全国に270物件超の賃貸住宅を保有し、資産規模は4,600億円を超えています。住宅という安定したアセット、Jリート最大の積立金（剰余金）を活用し、長期安定的な分配が期待できるディフェンシブ性の強いJリートです。

※「アドバンス」は、伊藤忠リート・マネジメント株式会社が運用する不動産投資法人の共通ブランドネームです。

本投資法人のホームページアドレス：<https://www.adr-reit.com>

資産運用会社のホームページアドレス：<https://www.itc-rm.co.jp/>